

## こんな時だからこそ孤立させない！

「どんな人でも野宿したいと思って生まれてくる人はいません。誰だって夜は当たり前前に布団で休み、体調が悪くなったら病院にかかりたいですよね。」そう話すのは、野宿者支援の会「さくら」のメンバーで約8年前から参加している谷古宇さん。野宿者の方が社会で孤立せず生きていけるよう、月一回のお弁当や衣類、保存食等を支給する活動を続けています。支給品はフードバンク等からの寄附で成り立っているそうです。コロナ禍での活動とても大変だと思いますが心強い存在ですね。



保存食だけでなく、温かい食事もお届けしたいとの思いから、いただいたお米をご自宅で炊いて、揚げ物等を添えて定期的にお配りしているそうです。



食事だけでなく、寄附された衣類等も配られます。



一人ひとり手渡ししてお食事等をお配りします。月に1回、顔を見て会えるのがとても嬉しいと話す谷古宇さん(写真左)。

取材日：令和3年4月18日 参加したボランティア数：5名

取材メモ：つながり、励まし合える場所があることは、とても心強いと思います。ずっと笑顔で寄り添いお話しをされていたのもとても印象的でした。(高橋祐治)

問合せ先：総合ボランティアセンター ☎3870-0061 FAX3870-5900